

第 1 回 苫小牧市総合戦略推進会議 議事録要旨

- 【日 時】 平成 27 年 7 月 15 日（水）14:30～16:30
- 【場 所】 苫小牧市役所 9 階 議会大会議室
- 【出席者】 石橋会長、小島副会長、秋山委員、佐藤委員、廣島委員、
山上委員、内山委員、今野委員、本庄委員、公地委員、
井上委員、加藤委員、甲谷委員、高野委員、辻田委員、
肥高委員（坂田委員、田中委員欠席）
胆振総合振興局地域政策部地域政策課 笹森課長、上原主事
苫小牧市 佐々木副市長、
総合政策部 政策推進室 町田室長、
政策推進課 小名課長、長谷川主査、川合主査
デロイトトーマツコンサルティング 香川、新川、高橋

議 事 内 容

- 1 開会
- 2 委嘱状交付 苫小牧市佐々木副市長から委嘱状交付
- 3 副市長挨拶 苫小牧市佐々木副市長
- 4 委員紹介・事務局紹介 各委員・事務局職員の紹介
- 5 会議の概要について
- 6 会長・副会長選任 石橋会長、小島副会長を選出
【石橋会長、座席移動、挨拶】
～ここから、会長が議事進行～
- 7 議題
 - (1) 背景と本会議の位置付けについて
【事務局から 資料 3 に沿って説明】
【質疑】 なし

(2) 背景と本会議の位置付けについて

ア 調査概要 及び イ 人口動向分析及び将来人口推計結果（速報版）

【事務局から 資料3に沿って説明】

【質疑】

（委員）

総人口の推移推計の中で、老年人口が2040年まで増加し、その後減少するという傾向にあるのは本市だけなのか。それとも他の市町村も同じ傾向が見受けられるのか。

（事務局）

他の市町村でも、どこかをピークにして減っていくという形になる。よく壺状の人口のグラフ、そのピークのところが、どこでピークアウトするかという時期が市町村によって多少違うが、同じ傾向にある。

（委員）

社会増減の関係について、20代、30代が本市の場合は多いというのはどうしてか。他の市と比べて比較か何かしているのか。何による違いなのか。

（事務局）

20代、30代では、政令市の場合では、大学進学就職の機会に、外から入ってくる。多くの市町村の場合はその逆で、進学就職の機会に、外に行ってしまう傾向にある。

（委員）

30代で、苫小牧市の場合は、移動が大きかったが、北海道内の他の市でも、同様の傾向が見受けられるのか。

（事務局）

移動という意味では、30代は動く年代であり、就職や結婚・出産の関係で移動することが多い。多くの道内の他の市町村はそういった傾向が見受けられる。

（委員）

38ページ記載の数字、離婚者はどのような形で出ているのか。

（事務局）

これは有配偶率なので、婚姻届を出している方の数になる。

（委員）

この数字だけで女性の結婚者数が少ないというのはなかなか言いにくいのでは。

(事務局)

全国的に結婚が遅れている、あるいは結婚してない人の数が増えている。これは女性だけでなく、男性も含めてである。同様の傾向が苫小牧市にも見られる。

(委員)

結婚していない独身者で、この中に入らない方がいて、それらをどのように捉え進めていくのかを考える必要があると思う。

(委員)

データは、今の苫小牧市の客観的な数字と、今後どうなるかという推計にすぎない。今後、総合戦略を構築していく上で、周辺市町村との対比などから、苫小牧の特徴を捉え、それに対しどうすべきか話し合いがなされていくものと理解している。

周辺地域についてのデータというのは、お願いをすれば、会議に出してもらえるのか。

(事務局)

他市のデータは、比較をすとか、自分たちのポジションを知る目的のために、国からリーサスという情報提供ツールが出ており、人口の動向や、観光における動向が、ウェブサイトで公開されている。全ての市と比較をするのは、とても大きい話になるので、ターゲットを絞ったかたちでの提示は可能である。

(会長)

事務局を通じて、どういうものが必要かという相談すればよろしいのでは。

(事務局)

御意見いただければ、事務局としても、必要なものであれば、データを示していく。

(委員)

実際に結婚する人を増やせば良いとは、思わない。子どもが生まれ、住民税を払える年代になるまで20年弱かかる。親もコストをかけ、自治体の補助、子ども手当や扶養手当を出すなど、ある程度手厚いものにしないと子育てはできない。人口が増えるということは、税金が増えるので、自治体にとってプラスという論法で国は考えているが、子供を一から育て、まちに住んでもらうには、働く場所も必要であり、コストもかかる。20年近くかかるものを議論するにはデータをいろいろと示してもらう必要がある。コスト面も含めて、本当に深く掘り下げて考えていく必要があると思う。その部分を含めて、皆さんといろいろ話をする機会だと思う。

(委員)

業種別でいくと、製造業に関わっている方が、非常に多く、非常に力のある企業が、苫小牧に工場を持ち、運営しているという特徴としてある。その部分が、苫小牧市の優位性として現れており、そのことを踏まえながら、意見交換できればと思う。

ウ 意見交換等

(委員)

今後、人口を増やすことを考えるに当たって、シングルマザーが増えている現状をどのように考えていくのか。結婚して幸せな家庭というイメージはあるが、今の時代に合っているのかというのが正直なところ。

(委員)

苫小牧市は全国から見ると少し上かもしれないが、正規雇用60%くらいと高くない。これでは、女性の立場から言えば、結婚に踏み切れない。子供を育てる上でも、難しい。

負の連鎖、親が経済的に大変な状況で、その子どもは高学歴になれない。子のスキルアップをする機会がなく、また子が貧乏になっていくという連鎖が起きる。日本は先進国でありながら、子どもの貧困が多い状況といわれている。未来を担う子どもたちには、手厚くしてあげたい。子は社会全体の宝という意識を持つ必要がある。

フランスの資料を集めていただきたい。フランスは、出生率を上げた。シングルマザーでも、子育てが十分保障されている。参考にできるところは、取り入れていくべき。

30代の女性たちは、子供を希望して、病院に行き、そこで初めて、子宮の老齢化による出産の難しさに直面する。補助を受けながら治療はするが、その補助では足りないとのこと。30代以降で結婚される方が多い今、出産を希望していても、できないという現実に対し、苫小牧がどのように啓蒙、バックアップできるかを考える必要がある。

(委員)

苫小牧市は、30代、40代が比較的多くいて、よく若い街だと言われるが、若い人たちは、自分たちのまちづくりに関して、あまり興味関心がない。自治体がやっていることに関して、興味関心を持ってもらうのが、地方創生に重要なことと思う。

(委員)

去年、道内で初めて男女平等参画都市宣言をした。男女平等という事で、女性の意識を改革していかなければいけない。昔はお産したら、女性が育てなければならなかったが、今はそういう時代ではない。その辺の意識改革をしていかなければいけない。

子どもの出生率を上げて、子どもを増やすのは、良いことであると思うが、今いる子どもには、学歴がない親の家庭のもとで、勉強できない子どもがたくさんいる。学習塾を市からの業務委託で行っている中で、家では勉強する環境がないという子どもが通ってきている。兄弟の面倒を見なければならず、勉強する時間がない。今いる子どもを大事に育てるということが重要と思う。

(委員)

保育園の方で、園長会議で話題になるのは、手のかかるお子さん、障害に近いようなお子さんの数が、この20年で増えてきている。また、苫小牧市は、道内でも1番虐待の多い地域であり、親の子育てに対する態度、その辺の環境も整えないで、子どもばかり増えるのは、不安なところがある。まず、環境の整備、子どもたちを、より良く育てる環境の整備を少しでも狙いながら進めていくべき。

(委員)

若い世代が、苫小牧市から出ていく。これは苫小牧市に魅力がない、あるいは、苫小牧市で働ける職場環境が備わっていないからでは。一方、ものづくりを中心とした大企業が頑張っていることが、この17万を維持している1つの要因とも思う。

せっかく子育てをしても、苫小牧市に学校等がなければ、札幌圏に出てしまい、苫小牧市人口減になる。そういう意味では、特色のある苫小牧市の優位性を含んだ、ものづくりの環境を強く後押ししなければ難しいと考えている。

17万の都市で大学がないのは苫小牧だけと言われ、駒澤大学を誘致し、現在に至るが、その中で、総合学科でなく、特色のある医療カリキュラム、福祉カリキュラム、栄養食育などのカリキュラムをPRし、苫小牧市で職を求めるような環境を整えてほしい。

(委員)

苫小牧の雇用の状況を見ると、期間的な従業員で3年だったり、苫小牧市が進めている指定管理制度では、市の管理の施設を一般企業に委託しているが、その任用期間は3年だったり5年だったりする。若い方々が、子育てに20年から30年かかる時に、3年後、5年後先がわからない生活環境の中で、子育ては非常に難しいと思う。

人口減は、経済の部分にも影響してくるが、定年を迎えた方々を再雇用し、働き手の維持と同時に年金をもらうまでの支援も必要と思う。

(委員)

1980年から1995年までの間、人口の伸びが高いという感じがする。これは多

分出生率が高かったのと、社会増もある程度あったのだと思う。この社会増は企業進出とかで、人口が多く伸びたと思う。総合戦略をつくるに当たっては、出生率だけでなく、企業進出なり、まちづくりというものを考えていかなければならない。

(委員)

この戦略推進会議で議論することは、苫小牧市をどれだけ魅力あふれるまちにするかということだと思う。そうすると、長いスパンと短期的なスパンで考えることとがあり、長いスパンでは、教育だと思う。今までは、大都市に行って、お金を稼ぐことが幸福であり、それは地方では味わえないと教わってきた。それは国がやってきたものとして、地方としては、地方に合った教育とはどんなものかを考えればいいと思う。学校をつくるだけが、行政の仕事ではなくて、学校で子供たちにどのような教育をしていくか、例えば、本を読む教育だとか、語学を教える教育だとかを、行政とともに考え、子供たちが大人になったときに、苫小牧に残りたいと思わせることが非常に大事と思う。

短期的に考えると、苫小牧は製造業と物流の拠点なので、働く場所を確保しないと魅力ある町にならないので、企業誘致を含めて、雇用の確保を考えれば良いと思う。さらに、その雇用体制も臨時雇用ではなくて、正規雇用として採用するために、正規雇用をする企業を立地する方向に向けばいいと思う。今ある資源を育てていく方向性も大事しながら、長期と短期のことを分けながら苫小牧市をつくっていく意見がたくさん出し、方向性を見出していければいいと思う。

(委員)

企業誘致は非常に大事な要素と思う。それと併せて重要となるのが教育、医療だと思う。行政区を超えた考え方も必要ということを日頃考えている。周辺の町との連携なり協力なりは必要である。隣町に企業があり、苫小牧の沼ノ端に住んでいても良いと思う。

(委員)

地域雇用の観点から、高専を出た学生は、関東圏、関西圏に最初はいくということがある。そのあと30代になって、北海道に戻りたいという学生に、学校としてどのような支援ができるのか。その支援に伴って、人口増、社会増に貢献できるでは考えている。

苫小牧高専については、市内からの学生数が少ない実態がある。高専は、厳しい教育をし、進級が大変なので、普通の公立高校に行って、大学に進学した方が良いという考えを持たれる父兄がいる。厳しいが、就職率は100%であり、本人の人生を幸せにするという観点が、重要になると思う。

日本の人口はどんどん減っていく。人口が減った段階で何ができるのかという観点も必要なのでは。実際に減った市の事例などから、新たな視点が見出せるのでは。

苫小牧市に快速の電車が欲しい。特急料金払わずに、高速で移動できる手段があると、苫小牧市内に新たな流動ができて、苫小牧市の幸せ感が上がる気がする。

(委員)

ハローワークでは、毎年高校生の就職支援を行っている。昨年の数字で、ハローワーク苫小牧管内 560 人ぐらい就職者を出したが、そのうち 200 名ぐらいが苫小牧から離れた。うち、130 人が札幌を中心とした道内の他の地域で、70 人が首都圏に出ている。そういう人達が外に出ない仕組みを構築することができればと思う。

20代、30代の方について、転入もあれば転出もある。これは苫小牧の固有の特徴と見ている。自動車産業などは3年以内の期間従業員を3万人ぐらい雇っていて、期間終了後に転出していく。その人たちが、3年経っても転出しなくて済む策を考えていければと思う。

資料に、失業率は増加傾向と記載があるが、昨年、一昨年の後半ぐらいから失業率が低下してきている。議論として、安定した雇用確保という流れで話を進めるということであれば、失業率は減少傾向にあるが、高止まりにあると文言を整理したら良いのでは。

(委員)

この総合戦略推進会議は、人口にスポットを当てて、どのような戦略を立てていけば良いかというのを、話し合う場だと思っている。市に、いろいろな政策等々があると思うので、その辺と整合性がとれた総合戦略をつくることができれば良いと思う。

本年度、苫小牧市青年会議所では、苫小牧東部に関するその地域活性化策と、CAP を起点とした中心市街地と呼ばれる地域の活性化について、やっている委員会があり、その担当をやっている。東部については、地域の企業に出資をしてもらって、株式会社のよな形で大学をつくり、基幹産業を支える人材を育てようというアイデアを考えている。中心市街地に関しては、行政の方々とも協力をもらいながら、まちなかクリエイティブラボという協議会に参加し、いかに苫小牧市を良くしていくのかを考えている。

そういった大小の視点を合わせながら、総合戦略について、青年会議所という立場としても、いろんな意見を言わせてもらいながら、より良いものにしていきたい。

(委員)

苫小牧市の人口は17万人が減ると言われているが、減っても16万人ぐらいに留ま

ると勝手にイメージを持っていた。何もしなかったら11万人。頑張って13万9,000人とのこと。何もしなければ苫小牧市の人口が2060年代に非常に減ってしまう。これは非常に大変な事態であるということをお教わった。

この会議の目的は、国の目標が2060年に1億人程度の人口を確保するということに対し、苫小牧市でどうしたらよいかという話だと思う。冒頭に会長が言っていたとおり、いかに苫小牧市らしい計画をつくるのかというのが重要になると思う。

(委員)

感想になるが、資料の地域経済に関する分析で、苫小牧は工業都市ということで、製造業に従事する者が多いと思うが、卸売業、小売業の従事者が多いことは予想してなかった。卸売業、小売業に従事している女性が多く、女性の力は大きいと思った。

また、日本の人口、2060年に1億を目標とすることだが、苫小牧はどのような目標なのか。2060年に10万人程度なのか、15万人程度なのか、はたまた20万ほどの都市を目指すのか。苫小牧がどこを目指していくのか。

実施したアンケート、3300通ほどアンケートをとっているということだが、この回収率とか、例えば回収率の男女の比率がどのようになっているのかを知りたい。

(会長)

苫小牧らしい戦略の策定を進めることは、苫小牧市の市政に対し多くの関心を持ってもらうきっかけになると思う。少なくとも、これを契機に、苫小牧市に対し皆さんに関心を持ってもらうという意味では、この戦略の策定は非常に重要であると思う。

苫小牧らしい切り札はあるのかもしれないが、人口増をもたらす切り札は難しい。子育ての話も出たが、子育てに対する経済的な問題、支援の在り方、それらは現実問題としてある。身近な問題からの提案は、非常に大事な視点であるのでお願いしたい。

また、先ほど地域連携の話もあったが、苫小牧市に限らず、他の地域とも協力できるところは協力し合い、いろいろな分野が協力し合っていく必要があるかと思う。もちろん、特徴ある活動を行っていくことも重要ではあるが、連携し合うことも重要と思う。

あと、国に言われたから、この審議会をつくり、案をつくったではなくて、苫小牧市が独自に考え、展開していく必要がある。

8 その他 次回の日時の調整について

9 閉会